

南シナ海 中国主張の「領海」

政府、海自艦通過を計画

16年、尖閣侵入に対抗

反発懸念し見送り

中国の習近平指導部は近年、領有権主張で攻勢を強化。日本側は深刻な事態に発展しないよう慎重対応に終始しているが、領海侵犯には強い対抗措置も取る備えをしていたことが判明した。24日に来日する中国の王毅国務委員兼外相に対し、菅義偉首相らが会談で

中国海軍艦は16年6月9日、初めて尖閣周辺の接続水域に入り、領海へ向けても航行。同月15日には別の中国海軍艦が鹿児島県・口永良部島の日本領海に侵入

（ここまで踏み込んで沖縄県・尖閣諸島周辺での活動中止を求めるかが注目される）。

した。日本政府は中国側の行動は「ステージが1段階上がった」（自衛隊幹部）と判断。外交・安全保障政策の総合調整を担う国家安保全保障局（NSS）で、中國公船の尖閣領海侵入も含む一連の行動への対抗措置の検討を始めた。

日本はアフリカ東部ソマリア沖での海賊対処に海自艦を派遣しており、現地への往復時に作戦を実施する一方、中国を過度に刺激しないよう非公表の方向で討議。中国側は探知可能なため、水面下で日本のメッセージ



ージを伝えられると分析した。しかし当時、政府は習国家主席の初来日も視野に日中関係を改善させる方向で外交を進めていたことから、最終的に実施を見送った。関係筋は計画について「中国は隙を見せる」と突いてくるので、あらゆる対応の検討が不可欠だ」と話している。

海保・海自の増強を

松田康博東京大教授（東アジア国際政治）の話 中國は、米国が南シナ海で行う「航行の自由」作戦に参加する国が増えることに危機感を持っている。海自艦を通すれば、中国への強化する国が増えることに対する懸念がある。しかし日本側が「中国の主張する領海」を通過すれば、中国への強化メセージにはなり得ている。

しかし日本側が「中国の領海侵入を抑えるための対抗措置」と考えても、中国側は「日本が挑発した」と捉え、尖閣諸島付近での行動を逆に増大させるかも